

2023 年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅣ (Seminar Ⅳ) 264046-14-000					担当教員	鯉江 康正 (コイエ ヤスマサ)		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	4年次	開講期	通年
科目特性	課題解決型 AL								

① 授業のねらい・概要									
本ゼミナールは、本学の教育プログラムの一つである「学生による地域活性化プログラム」として実施する。したがって、ゼミでは、①問題解決型教育＝体験・参加型教育の実践として、②「まちの駅」をテーマとしてとりあげ、③ゼミ生と学外アドバイザーとの緊密な連携をとり、④専門知識とスキルを応用してフィールド調査等の作業を行い、⑤地域活性化に貢献することを目的として活動していく。									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力を養う。									
③ 授業の進め方・指示事項									
授業時間外においても学生グループでヒアリング活動、ボランティア等への参加を行うことがあり、これらの活動について報告書の作成と提出を求める。すべてグループワークとなるので、他のメンバーに迷惑をかけないこと。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
特になし									
⑤ テキスト (教科書)									
特になし。必要に応じてプリントを配布する。									
⑥ 参考図書・指定図書									
過去のゼミ活動報告書									
⑦ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安									
(i) 社会人基礎力を養う (前に踏み出す力：主体性を持って行動できるようになる。考え抜く力：課題を発見し、それに対する解決策を考えられるようになる。チームで働く力：社会のルールや人との約束を守ることは当然のこととして、相手の話を丁寧に聴きつつ、自分の意見を伝えられるようになる。 (ii) 地域社会に貢献するとともに、感謝される行動をする。 (iii) 活動を正確に伝えられる報告書の作成ができる。									

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 社会人基礎力	社会人基礎力を備え、社会でリーダーとして活躍できる能力を有している	社会人基礎力を備え、社会で活躍できる能力を有している	社会人基礎力を備え、社会に迷惑をかけることのないレベルである	社会人基礎力を備えてはいるが、関係各位の支援が必要なレベルである	社会人基礎力が備わっておらず、社会に出てから迷惑をかける可能性が高い
(ii) 地域社会への貢献	自ら積極的に活動でき、リーダー的役割も十分に果たせる	自ら積極的に活動でき、地域貢献が十分にできる	地域活動に参加し、役割を理解し、活動で貢献できるレベルである	地域活動には参加するが、役割を十分に果たせていない	地域活動にほとんど参加できていない
(iii) 報告書の作成	全体の調整を含めて、報告書を自力で作成できるレベルである	他者と協力して全体調整ができ、報告書を作成できるレベルである	自分の担当分については確実にまとめ上げられるレベルである	他者の助けを借りれば、担当分をまとめ上げられるレベルである	自分の担当分させ、まとめることができない

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			70%			30%		100%
(i) 社会人基礎力			20%			10%		30%
(ii) 地域社会への貢献			20%			10%		30%
(iii) 報告書の作成			30%			10%		40%
フィードバックの方法	提出された報告書等は、添削して返却する。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
できる限る学生の自主性に任せるつもりではあるが、課題の提出等厳しく対処するようにする。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	オリエンテーション	ゼミ名簿、授業予定・アルバイト予定表の作成	120分
2	これまでのゼミの取り組み紹介	過年度活動の理解と確認事項の洗い出し	120分
3	活動計画の作成	活動内容の検討を行ってこること	120分
4	実課題への取り組み①（活動計画の決定）	活動計画書の作成	150分
5	実課題への取り組み②（ヒアリング準備）	ヒアリング先へのアポイントメント	150分
6	実課題への取り組み③（ヒアリング結果の確認）	学園祭での企画の検討。「まちの駅」へのヒアリング調査。	150分
7	実課題への取り組み④（ヒアリング結果の確認）	「まちの駅」へのヒアリング調査。ヒアリング結果のまとめとパネルの作成	180分
8	実課題への取り組み⑤（ネットワークみつけでのパネル展の企画・準備）	「まちの駅」へのヒアリング調査。ヒアリング結果のまとめとパネルの作成	180分
9	実課題への取り組み⑥（越後長岡まちの駅ネットワークでのパネル展の企画・準備）	「まちの駅」へのヒアリング調査。ヒアリング結果のまとめとパネルの作成	180分
10	実課題への取り組み⑦（ヒアリング結果の確認）	「まちの駅」へのヒアリング調査。ヒアリング結果のまとめとパネルの作成	180分
11	実課題への取り組み⑧（ヒアリング結果の確認）	「まちの駅」へのヒアリング調査。ヒアリング結果のまとめとパネルの作成	180分
12	中間レビューに向けた準備活動①（ヒアリング結果の整理）	各自の担当箇所の資料作成	120分
13	中間レビューに向けた準備活動②（発表資料の作成）	ゼミ生による発表資料の調整	150分
14	中間レビューに向けた準備活動③（発表原稿の作成）	発表資料・原稿の作成	150分
15	中間レビューに向けた準備活動④（発表の練習）	「とうきび観音まつり」への参加（ボランティア）	300分
16	◆中間レビュー	中間レビューを受けての今後の活動方針の決定	120分

17	実課題への取り組み⑨（中間レビューからの気づき）	越後長岡まちの駅ネットワークとの共同企画の検討	150分
18	実課題への取り組み⑩（越後長岡まちの駅ネットワークとの共同企画の準備）	越後長岡まちの駅ネットワークとの共同企画の実施	240分
19	実課題への取り組み⑪（越後長岡まちの駅ネットワークとの共同企画からの気づき）	ボランティア、越後長岡まちの駅ネットワークとの共同企画の報告書作成	240分
20	実課題への取り組み⑫（学園祭準備）	学園祭の実施	360分
21	実課題への取り組み⑬（学園祭のまとめと気づきの整理）	ハロウィンみつけへの参加（ボランティア）	300分
22	実課題への取り組み⑭（ハロウィンみつけのまとめと気づきの整理）	今町ハロウィンへの参加（ボランティア）、成果発表会資料の作成	300分
23	成果発表会に向けた準備活動①（今町ハロウィンのまとめと気づきの整理）	成果発表会資料の作成	150分
24	成果発表会に向けた準備活動②（成果発表会資料のチェック、修正）	成果発表会資料の作成	150分
25	成果発表会に向けた準備活動③（成果発表会の準備）	成果発表会の予行練習	180分
26	成果報告書原稿および次年度の活動計画の作成①（成果発表会のまとめと気づき）	報告書目次案の作成と担当分担の検討	150分
27	成果報告書原稿および次年度の活動計画の作成②（報告書の作成）	各自の報告書担当分の作成	240分
28	成果報告書原稿および次年度の活動計画の作成③（報告書の作成）	各自の報告書担当分の修正	120分
29	成果報告書原稿および次年度の活動計画の作成④（報告書の修正）	報告書の全体調整	180分
30	成果報告書原稿および次年度の活動計画の作成⑤（報告書の完成）	報告書の最終チェック	120分

<p>⑫ アクティブラーニングについて</p> <p>課題解決型 AL を採用する。課題をゼミ生自らが発見し、協働でフィールドワークを実施し、社会人基礎力を養っていく。最終的には活動報告という形で報告書を作成する。</p>

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性